

注目すべき事例の整理（たたき台）

他の養成機関や今後の養成課程の編成に参考になると考えられる事例を抽出して、特徴を記述した。

（１）大学等

- ・ 日本語教育関係の科目の履修が特定の専攻分野の学生に限定されない事例（20, 23）
- ・ 日本語コミュニケーション能力を向上させることを目的とした科目を設置（必修または選択）している事例（3, 7, 8）
- ・ 初等・中等教育の教員養成課程に日本語教育に関する科目を設置している事例（27, 30）
- ・ 修了に必要な単位数が通常よりも多い事例（11）
- ・ 幅広い領域をカバーしている事例（6, 25, 27, 31）
- ・ 海外機関を含め、実習を充実させている事例（6, 11, 31）

（２）日振協

- ・ 修了要件に成績評価や卒業試験が課されている事例（33）
- ・ 800時間以上の長期養成課程の事例（33）
- ・ 420時間という履修時間でも、研修期間の柔軟な運用を行っている事例（35, 43, 44）
- ・ 日本語コミュニケーション能力向上を目的とした科目を設置している事例（46, 48）

（３）地域

- ・ コーディネーターの養成を目的とした事例（53, 54）
- ・ 外国人児童生徒に対する日本語指導者を養成する事例（63, 64）
- ・ 日本語非母語話者を対象とした事例（66）
- ・ 様々な機関、団体、専門家の連携により取り組まれている事例（64, 66）
- ・ 一回毎にユニークなテーマを取り上げるブラッシュアップ講座の事例（69）